

地域産業活性化への支援

藤田 正美 議員
(「想造」/度会郡選出)



問

郡部では、雇用の場が少ないなどの理由により若者が流出し、経済規模も縮小しています。

そのため、「地産他消」「地産外商」といった、地域の資源を地域で加工し、それを他の地域で販売し地域外から資金を呼び込み、地域内に投資するための環境の整備や支援体制の強化が必要と考えますが、県としてどのように取り組むのか伺います。

答

地域資源を活用した取り組みがビジネスとして成功し、地域産業として発展するためには、地域内だけでなく、地域外への販路拡大による売り上げの確保が大きなポイントとなることから、商工団体、金融機関などとの連携を深めつつ、事業者の新たな販路、市場の開拓を促進していきたいと考えています。



三重の逸品会(大阪千里中央駅)

○野呂県政二期八年の総括 ほか

特定鳥獣保護管理計画

長田 隆尚 議員
(新政みえ/亀山市選出)



問

獣害対策で狩猟対象となるニホンジカとイノシシについて、ニホンジカは、第2期①特定鳥獣保護管理計画に基づき、捕獲頭数制限などを緩和していますが、猟期の延長は計画に盛り込まれていません。また、イノシシは、計画自体がありません。

猟期の延長に向けたニホンジカの計画変更とイノシシの同計画策定についての見通しを伺います。

答

ニホンジカの捕獲実績は、大幅に増加する一方、生息数も増加し、イノシシについては、農林業被害が依然として高い水準のまま推移しています。このため、3月15日までの猟期延長を盛り込んだニホンジカの計画変更やイノシシの計画策定作業を進めており、12月中に公聴会の開催と審議会への諮問を予定しています。



○知事二期の総括 ほか

県の薬物対策

山本 勝 議員
(自民みらい/桑名市桑名郡選出)



問

野呂県政での取り組みの中で残された課題の一つに薬物対策のさらなる強化があげられます。

民間では、NPO法人の三重ダルクが、薬物依存者が集まり共同生活を行い社会復帰を目指し、リハビリテーションセンターの運営などの活動をしていますが、運営は厳しい状況です。このような取り組みに対し県ではどのような支援を行っていますか。

答

薬物依存からの回復を支援するためには、同じ経験を持つ人たちの集まりである自助グループの果たす役割が大きいと考えます。県では、三重ダルクが運営する小規模作業所への補助金交付や、グループホームの運営に対する一部負担を行うほか、研修会の共催などで連携しています。



○教育問題(学力低下・いじめ問題) ほか

CIO補佐業務の成果

稲垣 昭義 議員
(新政みえ/四日市市選出)



問

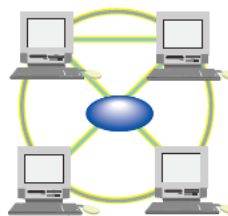
県議会が行った情報関連予算の効率化、適正化を求める提案以降、県は、情報システム全体

契約額の7割以上を占める運用保守費の削減に努めてきました。また、昨年度から、情報統括責任者(CIO)補佐業務を委託し、一層のコスト削減や運用の効率化・適正化に取り組んでいます。その成果と来年度以降の新たな取り組みについて伺います。

答

情報システムの予算に係る審査体制の強化によるコスト削減の取り組みなどにより、今年度の大規模なシステムの運用保守費は、前年度より4億8千万円減少しました。来年度以降も引き続きCIO補佐業務を委託し、IT投資管理体制の強化を図っていくことを検討しています。

○三重県の未来



文中の傍線部分については、5ページに用語解説を掲載しております。